

【国鉄新幹線総局工事局 提供】

## 東海道新幹線新丹那トンネル函南方坑外設備

(本文ニュース参照)

### 建設省土木研究所

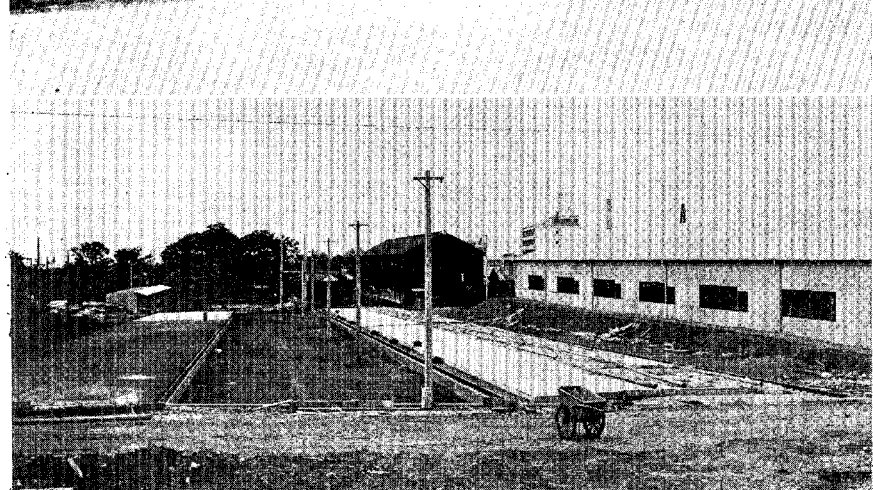
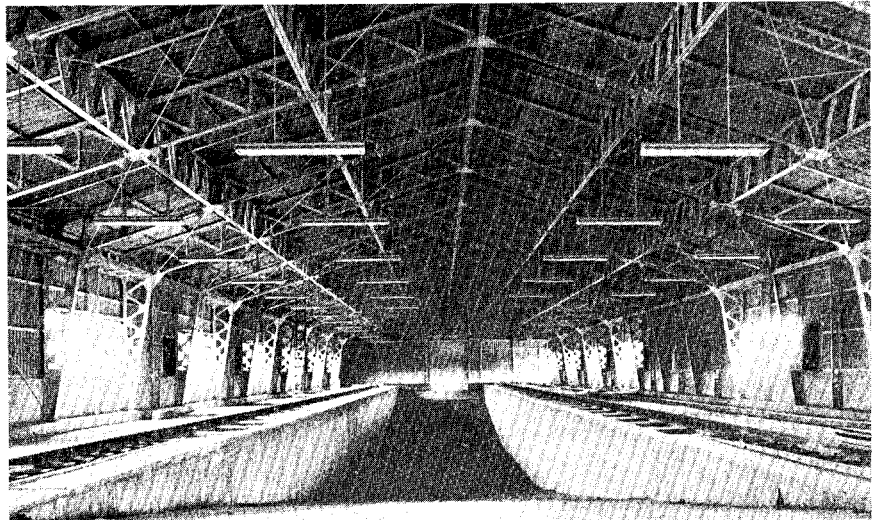
#### 千葉支所（道路試験場）の路床 路盤試験用テストピットほぼ完成

千葉県穴川町(元地理調査所跡)に土研の道路部門を総合した千葉支所が完成、移転を終った。交通、舗装、トンネル、基礎、建設機械、施工などの当面する問題の解決に大きな期待が寄せられるが、ここに紹介するテストピットは延長 70 m、巾員 9.5 m、深さ 2~4 m で、路床土 1200~1300 m<sup>3</sup> を収容でき、含水率を変化させて地耐力を計り、各種路盤を構築して 30 t 載荷試験装置により破壊試験、くり返し試験などの研究を実施する。路床土は毎年 1 回これを交換する予定で、初年度は関東ロームを入れるはずである。

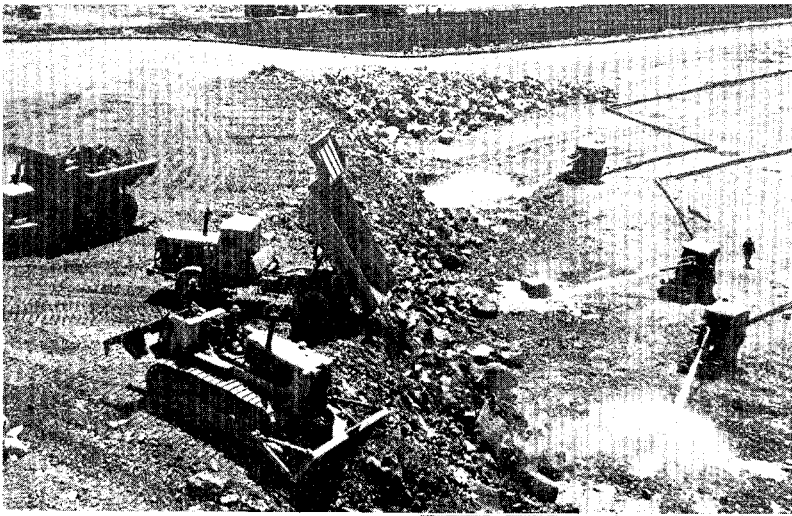
#### 写真説明

上：テストピット内部

下：コンクリートおよびアスファルト試験舗装路(延長 100 m、巾員 9 m)、右手がテストピット建屋



【建設省土木研究所 提供】



## 御母衣ロックフィルダム 施工状況

わが国最大のロックフィルダムである御母衣ダムの建設が電発の手で庄川上流の岐阜県白川村において行われている。

←本体ロック盛立および土質遮水壁の転圧状況 本体を構成するロックのかみ合わせの間にズリや不純物があると不等沈下の原因となる。そこでロックの盛立時には十分な水洗を行い、空げきに細粒物質を流し込まねばならない。御母衣ダムでは水圧を  $5 \text{ kg/cm}^2$ 、水量は盛立量の3倍を標準とし、モニターによる射水洗滌を行っている。土質遮水壁は水圧に耐え貫孔作業を起こさないように十分な水密性をもつて締固められねばならない。

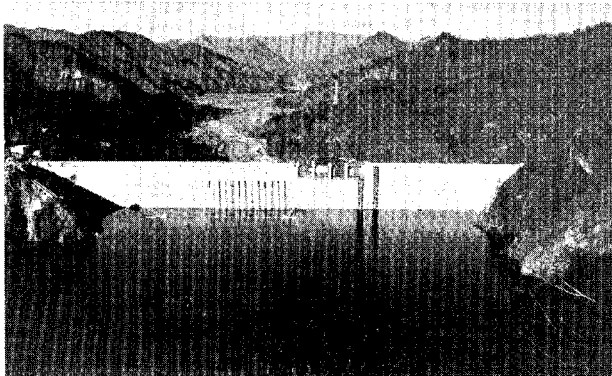
【通産省公益事業局 提供】

### 土質材料の盛立状況 →

御母衣ダムでは土質材料の一層の巻出し厚  $15 \text{ cm}$  を D7 ブルドーザーによつて牽引された  $37.5 \text{ kg/cm}^2$  の 20 t シープスフートローラーにより転圧している。現在までに約  $580 \text{ 万 m}^3$  の盛立（うち土質遮水壁は約  $110 \text{ 万 m}^3$ ）が行われ、来春早々満水が予定されている。

### ダム

型式：傾斜土質遮水壁型ロックフィル  
高さ：131.0 m  
堤頂長：405.0 m  
堤体積：7 950 000  $\text{m}^3$



## 田子倉ダム完成

わが国最大の水力発電所（最終出力 38 万 kW）をもつ電発の田子倉ダムがこのほど完成し、検査終了後いよいよ 285 000 kW の発電を開始することとなった。

### ←貯水池

利用水深：52.0 m  
貯水面積：9.95 ×  $10^6 \text{ m}^2$   
総貯水量：494 ×  $10^6 \text{ m}^3$   
有効貯水量：370 ×  $10^6 \text{ m}^3$   
年間流入量：2 180 ×  $10^6 \text{ m}^3$

### ダム

型式：直線重力式コンクリート造  
堤高：145.0 m  
堤頂長：477.0 m  
堤体積：1962 000  $\text{m}^3$   
地質：石英粗面岩

【通産省公益事業局 提供】

